この子らと

令和5年7月号

命輝く子ども

担任と園児の対話(こあら組)

わくわく鹿児島中央認定こども園

園長　川口公男

心の四季

人に接するときは　　暖かい春の心
仕事をするときは　　燃える夏の心
考えるときは　　澄んだ秋の心
自分に向かうときは　　厳しい冬の心

実業家である鮫島輝明氏の言葉です。人は生きていく上で心に四季,「春夏秋冬」をもっていなければならないということです。

厳しい冬に着ていた厚いコートを脱ぎ,心の壁を取り除いて暖かい心で接しようなどと呼びかけています。「心の四季」は,わたくし自身への戒めの言葉としています。

オンラインによる職員研修会

子どもの命を預かる園では,善悪を指導するために,叱ることも必要な場面もあります。そのためには,**子どもの内なる声を聴き,心に響く叱り方でなければならないと思っております。**今回の研修は,「怒りのメカニズム」,「怒りのコントロール」,「感情に振り回されない保育」等今後に生かせる示唆に富んだ講話でした。

「もじかずくらぶ」

ぱんだ組

きりん組

ぞう組

小学校との懸け橋として「もじかずクラブ」を実施しています。

もじやかずに親しみ,言葉を豊かにして,考える力・表現する力・判断する力等遊びを通して培っています。

活動は,「間違い探し」や「迷路遊び」,「シール貼」などです。楽しく遊びながら,もじや数について,学びの基礎づくりを進めています。

心の言葉

ある女性が,生まれつき身体に障害がある子どもたちが入院している病院へ見学に行く機会がありました。病院に着き,部屋の中を見学していると子どもたちが近寄ってきました。

そして,その中の一人の男の子が女性のメガネを見てこう尋ねました。「おばさんのそのメガネは,近眼なの,それとも老眼なの」と。男の子には,悪気は,ありません。素朴な疑問としてそう思ったのです。

でも,女性は,老眼をかけ始めたばかりだったのであまりそのことにふれてほしくなかったのです。

そこで,あまり気にしていないふりをして,「老眼よ」というと「その子は「おめでとう」と言うではありませんか。さすがに女性はムッとして,「どうして,老眼鏡をかけたのがおめでたいのかな」と,大人げなく言い返すと,その子は続けて,「だって老眼のメガネをかけられるほど,おばさんは長生きできたのだから。」と言うのです。

あとで,わかったのですが,**その子は,難病で命に制限が設けられていたのです。その子にとって,老眼鏡は,長生きのシンボルであり,健康の証でもあったのです。**

“園バスの置き去り事故防止を万全に”

置き去り事故防止のため,園バスに「安全装置」(確認くん)を取り付けました。運転席前方に「警報発生装置」後方に「警報解除装置」です。

エンジン停止後,車内向けに10分間,「確認してください」と警報を発します。「10分間」経過して,運転手等が警報解除しない場合,外部に向けて「確認してください」を繰り返し,解除されるまで発し続けます。